

2010年2月15日発行

# ぶろす

四季の会・ユーザーズ・サービス

270号

発行人

拝啓 梅花の候、先生におかれましては益々御活躍のことと存じます。

**時代と共に私たちの身近な冠婚葬祭にも変化が出てきたようです。**葬式に金をかけられない時代の葬式で、巨大な祭壇、生花、高額な戒名は？！今や「家族葬」や「直葬」など、更に「樹木葬」・「宇宙葬」、また「友人葬」で簡略化の動きと墓の無縁化など・・・、家族や親族の絆はどうなっていくのかが心配になります。

**「妖怪神社」を知っていますか！**「ゲゲゲの鬼太郎」などの銅像が並ぶ、鳥取県境港市の水木しげるロードにある妖怪神社。その拝殿は、「黄泉の国」とこの世を結ぶトンネルとなっています。その拝殿で、大阪府のあるカップルが着ぐるみの妖怪たちに囲まれた結婚式を挙げた。(新聞の記事)親族ら約50人が堤ちん行列で祝福、**2人は妖怪神社で「結婚証明書」に署名し、最高の幸せになったとのこと**です。面白おかしい結婚式。これから「黄泉の国まで」行ってやる人も出てくるかも知れませんか！何でもてくる時代に生きていかなければならないと思います。頑張っていきましょう！

## 運は自分でつかむこと

松下幸之助は、「**貧しいことが、幸となるか不幸となるか、それは自分次第である**」と、松下政経塾の塾生に常に語っていたのです。小さいときに丁稚奉公に行った時分のとき、忍従の生活やったけども、そういうことをやっているうちに、仕事のコツというものがだんだんわかってくるものだ。学問もない！手紙一本よう書けないけれども、今日こうして仕事をやれることは、そういう「体験の中から」コツをつかむということをやってきたおかげ。「**コツをつかむ」「運をつかむ**」ことになったのです。

「運のつかみ方」について「致知 2010.3月号」で、女優 貴城けいさんが、宝塚の体験を語っていた。「**清く・正しく・美しく**」をモットーとする宝塚歌劇団に、ある日突

然、貼り出された。「**25の戒め**」がある。『**ブスの25箇条**』

- ・笑顔がない ・お礼を言わない
- ・おいしいと言わない ・自信がない
- ・目が輝いていない ・精気がない
- ・いつも口がへの字の形をしている
- ・希望や信念がない
- ・**自分がブスであることを知らない**
- ・声小さくイジケている
- ・自分が最も正しいと信じ込んでいる
- ・グチをこぼす ・他人をうらむ
- ・責任転嫁がうまい ・他人を信じない
- ・いつも周囲が悪いと思っている
- ・他人にシットする ・他人につくさない
- ・謙虚さがなくゴウマンである
- ・人のアドバイスや忠告を受け入れない
- ・なんでもないことにキズつく
- ・悲観的に物事を考える
- ・問題意識を持っていない
- ・存在自体が周囲を暗くする
- ・人生においても仕事においても意欲がない

**誰もがその貼り紙の前で、足を止め見入ってました。「こうするとブスになる」というこの25の戒めは、何も女性だけを対象にしたものではなく、人間としてあるべき姿を、逆説的に示したものではないかと思えます。**そして、ひいてはそれが人から愛され、運を呼びこむための資質といえるのではないのでしょうか！

夢や願望といった壮大なことではなくとも、「人としてよく生きたい。美しく生きたい」という思いは、誰でも共通したものだと思います。例えば、この「ブス25箇条」を読んで、まずは「自分ってどうなんだろう」と振り返ってみることが、第一歩ではないかと思えます。「よし、一つずつクリアして行こう」と決意し、実践する。**そして、それを継続した人のみが成功し、必然的に運をつかむ人になると思えます。**

一日でクリアできる人もいれば、10年かかる人もいるでしょう。しかし、自分の歩幅に合わせて少しずつでも前進していくことが、結果として、その人の人間力となり、魅力となる。そうすれば、「**運の方から、自分のところへ**」やってくるのではないかと**思っています。**

## 会計事務所・「究極の顧客満足」

私たちは数字の世界で生きています。会社の経営は「つくる」「売る」「管理する」の3つが必須条件であり、「ヒト」「モノ」「カネ」等々が介在され、経営されているのです。それが「経理」となり、「**税務**」や「**決算**」になっている。そこで大事なことは経営者とのコミュニケーションです。

**企業は何と言っても経営者次第です。経営者の「思い・仕事ぶり」が企業の全てを支配しているのです。経営者の普段の「ものの見方・考え方」また「思考の物差し」です。経営者は一人ひとり異なる価値観をもっています。経営や人生の中で、経験や体験の中で価値観を身につけてきたのです。そのように、日常の経営の中で判断や決断をしているのです。**

経営者は今迄の身に付けた価値観で物事

を判断しています。その価値観は、今迄の人生の中で、無意識の内に身に付けてしまったものです。その価値観は誰から与えられたのでしょうか！出会った人、出合った出来事、出合った現実など、様々な出会いを体験してきています。両親や、先生や、友達や、先輩、同僚たち、その人間関係の中で、自分の価値観を無意識の内に身につけてきたのです。

**私たちは、そのような経営者との「対話・コミュニケーション」が非常に大事です。経営者への「元気づけ」です。**話の中でこの乱世の、デフレ。トヨタが大変だ。JALもつぶれた。デパートも90%が赤字で抜本的な戦略をしなければ生きられない。新聞をみれば悪いことばかりです。**ひるがえってみれば、中国は鄧小平によって国家変革の運命を切り開いてわずか30年で今がある。**

松下幸之助は、「ないないづくし」でわずか50年ほどの間に3人で始めた「茶子粒(けしつぶ)」ほどの極小企業を、数万人を擁する世界的企業にしたのです。その成功要因をみると、ことごとく「平凡なこと、当り前のこと」が要因であった。「熱意をもつこと・努力すること・誠実であること・感謝する・思いやりの心・信念を持ち、信念に生きる」。結局のところ「**成功の王道**」は極めて「**平凡な原則**」でしかなかったのです。私たち中小企業も、自信を持って王道を進むことです。

鄧小平にしても、松下幸之助にとっても、諸々の体験の中から、高い価値観を形成して来たからだと思うのです。「**価値観が身につく条件**」は、①つは、人生において出会いが価値観を与えてくれる。②つは、価値観の学習によって身につくといわれます。

**こんなことを考えながら、経営力診断(社長診断)を全く新しい発想で製作いたしました。これは2部で構成され、第1部は「名将診断」、第2部は「成功力診断」でつくられています。この時代の会計事務所に一番大事な「顧客満足」です。数字から離れてお客様のために「経営者が振り返って、深く、長く、多面的に物を考える」経営者満足になるものと確信しております。**

歴史から学ぶことは、未来へシミュレーションできる唯一の学問といわれます。歴史上の出来事はいずれも、既に何らかの結果をえているのです。自分のいまの状況に似た場を見つけて決断・判断の参考にすればいいのです。

戦国の6人の名将「信長、秀吉、家康、政宗、元就、信玄」は、今の経営者に共通点ばかりです。「領地を守り、領民を豊かにする」ために戦った。戦略・戦術・経営手腕・人間管理法は、「時代は変わっても、社長の本質は変わらない」と思うのです。この診断は、そこに着目し、「基本姿勢や経営理念等」をアンケートを通して、生き方・考え方のなかに、社長に生かせる糧を発見していただけるものと確信しております。

会計事務所にとって、**今、重要なことは、「新規拡大」と「付加価値向上」**です。このシステムの活用の仕方はマニュアル化されています。ブレない会計事務所経営、究極の顧客満足、所員満足になります。